

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	C区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	がっこうほうじん おおさかおんがくたいがく 学校法人 大阪音楽大学		団体ウェブサイトURL https://www.daion.ac.jp/
代表者職・氏名	理事長 北野 徹		
制作団体所在地	〒 561-8555	最寄り駅(バス停)	阪急宝塚線 庄内駅
	大阪府豊中市庄内幸町1丁目1番8号		
電話番号	06-6336-2001(楽団直通)		
ふりがな 公演団体名	かんげんがくだん ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団		団体ウェブサイトURL https://www.daion.ac.jp/campus/opera/opera-orchestra/
代表者職・氏名	ザ・カレッジ・オペラハウス館長 北野 徹		
公演団体所在地	〒 561-8555	最寄り駅(バス停)	阪急宝塚線 庄内駅
	大阪府豊中市庄内幸町1丁目1番8号		
制作団体 設立年月	1915年 10月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	理事長 / 北野 徹 常任理事 / 高 昌帥、福井 慎吾、 森岡 周平、森本 友紀 理事5名、監事2名、評議員22名		《ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団》 構成員53名、事務局員7名 加入条件:採用オーディションによる
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	オーケストラマネージャー 木全 美和
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	連携・演奏事務部門長 古賀 章太
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	oh.orch@daion.ac.jp		

<p><b>制作団体沿革・ 主な受賞歴</b></p>	<p>1915年 創立者永井幸次により、大阪音楽学校を開校。  1958年 大阪音楽大学開学。  1988年 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団発足。  1989年 ザ・カレッジ・オペラハウス開館。柿落し公演として「ファルスタッフ」を上演。  1999年 (オペラハウス管弦楽団)東京文化会館と滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールにて、黛敏郎作曲「金閣寺」を上演。  2000年 オペラハウス管弦楽団の演奏が評価され、「第20回音楽クリティック・クラブ賞」を受賞。  2005年 (オペラハウス管弦楽団)松村禎三作曲「沈黙」の再演で文化庁芸術祭大賞を受賞。  2009年 (オペラハウス管弦楽団)学校巡回公演事業、参加開始。  2014年 文化庁委託事業「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」として「ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団・新国立劇場合唱団合同演奏会とオペラ合唱ワークショップ」を開催。  2021年より発足したジュニア・オーケストラ(大阪音楽大学附属音楽院統括)にて、楽団正指揮者、コンサートマスター、楽団員が講師として指導にあたる等、未来の文化芸術を担う子供たちの育成にも力を注いでいる。  2024年 (オペラハウス管弦楽団)第63回定期演奏会《モーツァルト/劇場支配人・サリエリ/はじめに音楽、それから言葉》が第22回佐川吉男音楽賞を受賞。</p>			
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>◆学校巡回公演事業  ・令和2年度 「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」6公演  「子供のために文化芸術体験機会の創出事業」5公演  ・令和3年度 「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」14公演  「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」2公演  ・令和4年度 「文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－」12公演  「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」6公演  ・令和5年度 「舞台芸術等総合支援事業－学校巡回公演事業－」 A区分7公演／C区分8公演  ・令和6年度 「舞台芸術等総合支援事業－学校巡回公演－」 (予定)A区分7公演／C区分6公演  上記ほか、大阪市内小学校での音楽鑑賞会や学校公演(大阪市青少年芸術体験事業)や  2012年には、被災地支援コンサートとして、石巻市・女川町などでの学校公演も実施。</p>			
<p><b>特別支援学校等における 公演実績</b></p>	<p>・平成26年度 「文化芸術による子供の育成事業」 杉並区立済美養護学校  ・平成27年度 「文化芸術による子供の育成事業」 宮崎県立日南くろしお支援学校  ・平成30年度 「文化芸術による子供の育成事業」 広島県立庄原特別支援学校  ・令和3年度 「文化芸術による子供の育成総合事業」 滋賀県立野洲養護学校(C区分)  ・令和4年度 「文化芸術による子供の育成推進事業」 滋賀県立野洲養護学校(A区分)  ワークショップ・公演実施にあたり、開催校からの要望や状況をヒアリングし、  特別プログラムや時間の短縮など、各学校に合わせて柔軟に対応し実施している。</p>			
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/9B3gg7MFgDo">https://youtu.be/9B3gg7MFgDo</a></p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

別添	あり
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	オペラハウスへようこそ！ ～ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 オークストラ公演～			
企画のねらい	この企画を通じて、初めてオーケストラやオペラの生演奏を聴く子供たちが殆どです。多感な青少年の時期にこの機会を提供することにより、音楽の楽しさ、音楽と一緒に創る(共演する)感動や喜びなど、様々な感情と出逢い、豊かな感性を育む大切な機会となることをねらいとしています。また、クラシック音楽が堅苦しいものではなく身近な存在であることを知ってもらうこと、この機会を通じ未来を担う子供たちの選択肢が広がる機会につなげたいと考えています。また、小編成のオーケストラであっても演奏の質を保つ工夫を凝らすことで、大編成に劣らないオーケストラのサウンドを提供でき、文化的な地域格差の解消の促進に繋がることもねらいとしています。			
演目概要・演目選択理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽教材にも取り上げられている「アルルの女」をメインに、前半に鑑賞をメインとしたオーケストラの名曲やオペリアリア、後半に共演曲をメインに配置することにより、変化に富んだ公演となるよう構成しています。</li> <li>・オーケストラの生演奏だけではなく、普段聴くことのできないオペラの歌声を聴いていただくことも、重要なポイントとしてプログラムを構成しています。</li> <li>・緩急のある曲目構成とすることにより、子どもたちの豊かな感性を育むことにも繋がるよう考えております。</li> <li>・小編成のオーケストラでも、演奏の質を保ち大編成に劣らないオーケストラのサウンドを体感いただける曲目で構成しています。</li> </ul> ※別添あり			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<b>【① 開催校校歌】</b> 普段ピアノ伴奏で歌っている各学校の校歌をオーケストラ版に編曲し、児童・生徒の皆さんと一緒に歌っていただきます。 <b>【② 指揮者体験コーナー】</b> まずは全員で指揮の練習、指揮者の見本を聴いて頂いた後、オーケストラの指揮に挑戦していただきます。(体験は代表者3名。ワークショップでもレクチャーがありますので、安心してご参加いただけます) <b>【③ 共演コーナー】</b> 「合唱」では、ワークショップでオペラ歌手の歌唱指導を受けた成果を披露し、本公演でオーケストラと共演していただきます。「手拍子リズム」では、ワークショップで児童・生徒の皆さんからのアイディアを元に作る“学校オリジナルのリズム”で共演していただきます。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～300名程度(演奏スペースを除き、収容範囲内)	
		鑑賞人数目安	～300名程度(演奏スペースを除き、収容範囲内)	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	1. ロッシーニ／歌劇「ウィリアムテル」より 序曲“スイス軍の行進” 2. 【楽器紹介】各楽器をお話と演奏を交えながら紹介 3. ビゼー／「アルルの女 第2組曲」より “メヌエット” 4. オペラ・アリア1曲 オペラ歌手による独唱曲 5. 【共演①】開催校校歌 6. 【共演②】指揮者体験コーナー ビゼー／歌劇「カルメン」より 前奏曲 7. 【共演③】下記A～Bの中から1曲を選択 ※Aでは、下記以外の曲目にも相談可能です。 A. 合唱 杉本竜一／ピリウ 村井邦彦／翼をください B. 手拍子リズム 8. ビゼー／「アルルの女 第1,第2組曲」より “カリオン” “ファランドール” 9. 【アンコール】オッフェンバック／喜歌劇「天国と地獄」より 序曲 公演時間(休憩含む) 80 分			
出演者	[指揮] 井村誠貴、佐々木新平、金正泰 他(全て予定) [歌と司会] 歌手1名 内藤里美、端山梨奈、竹内直紀、迎 肇聡 他(全て予定) [管弦楽] ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団(変則1管3型) 23名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<b>指揮／井村誠貴</b> 2013年には年間オペラ公演回数が日本人第1位になるなどオペラ指揮者としての地位を確立。オペラのレパートリーは50を超え、近年ではミュージカルにも活動の場を広げている。、年間100公演近くに及ぶ実績と、繊細且つダイナミックな指揮は、多くのファンを魅了し続けている。 <b>テノール／竹内直紀</b> 京都市立芸術大学音楽学部管打楽専修卒業。卒業後に声楽に転向、同大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。第4回万里の長城国際音楽コンクール第1位。これまでに関西を中心に約100公演のオペラに出演。現在、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー。〈びわ湖ホール四大テノール〉としても活躍している。			
本公演従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者: 25 名	運搬	積載量: 2 t	
	スタッフ: 7 名		車長: 6.3 m	
	合計: 32 名		台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9:00~12:00 (リハーサル含む)	13:30~14:50	15分	14:50~16:00	16:00

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月
	10日	0日	0日	5日
	10月	11月	12月	1月
	13日	9日	10日	14日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出が  
わかる写真)



※採択決定後、図  
面等の提出をお願  
いします。



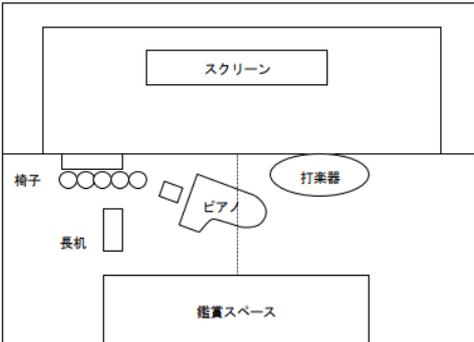
- ・オーケストラは舞台上は使用せず、  
体育館のフロア面を使用して演奏いたします。
- ・舞台設置に必要な広さ  
演奏スペース【幅 約10m、奥行き 約8m】  
ステージと舞台袖は、楽器ケース置き場として使用。
- ・午前公演の場合、前日仕込み(1時間程度)が必要。

著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当あり	該当コンテンツ名	共演③で学校の希望曲を編曲する場合、 許諾手続きが必要になる可能性有
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p>まずは、楽器やオーケストラへの興味や関心を高めることを目標とします。 各楽器について楽しみながら知識を深める工夫をし、ソロやアンサンブル演奏を聴くことにより、オーケストラで演奏する本公演への期待感を高めます。</p> <p>共演曲指導については、プロの演奏者の指導を受けることで、本公演に向けての意識を高め、『オーケストラとの共演』という一つの目的に向けて取り組むことで、学校全体がひとつのチームとなり、協調性・共感性など子供達の心の育成にも繋がっていくことを期待しています。</p> <p>質問コーナーでは、子供達と演奏者との交流を図り、「音楽家」そのものへの興味関心へつなげ、演奏者や歌手を身近に感じてもらうことも意図しています。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>～300名程度(会場収容範囲内)</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>オーケストラの演奏者4名(合唱共演の場合は、内1名はオペラ歌手)と、スタッフ2名が伺い、2時間程度で実施いたします。</p> <p>【オーケストラについて・楽器紹介】 オーケストラはどんなものなのか、スクリーンに楽器の写真を投影しながら、演奏とお話を交えながら各楽器を分かりやすく紹介します。</p> <p>【指揮者体験】 指揮者の役割について説明を行い、全員で指揮の練習をしたあと代表者3名に指揮に挑戦していただきます。</p> <p>【ミニコンサート】 アンサンブルの生演奏をお届けいたします。</p> <p>【共演曲指導】 ※選択いただく共演曲によって内容は異なります。 A.合唱 歌うときの呼吸や姿勢、大切なポイントなど、プロのオペラ歌手による歌唱指導を中心に行います。 B.手拍子リズム メンバーのリズムを真似しながら、身体を叩いて楽器にします。 児童・生徒の皆さんにアイデアを募り、その場で“学校オリジナルのリズム”を作り、本公演での共演に向けて練習します。</p> <p>【質問コーナー】 音楽や楽器について、なかなか聞くチャンスが無い質問を直接お答えします！</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「合唱」共演を希望される場合は、学校側での事前練習をお願いいたします。</li> <li>・「手拍子リズム」共演を希望される場合は、学年を限定し、時間短縮2回での実施も可能です。</li> <li>・ワークショップでは、ピアノ・プロジェクター・打楽器など、学校の備品をお借りいたします。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>ワークショップ配置例</p>  </div> </div>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b>          本事業でオーケストラやオペラに触れる機会を通し、音楽芸術・音楽文化への興味関心の向上を図るとともに、子供たちの豊かな感性を育む機会に繋がることを目標として、取り組みます。メディアを通じ手軽に文化芸術に触れ音楽を聴くことが出来るようになった昨今ですが、オーケストラやオペラ歌手の生演奏に触れることから得られる感動は計り知れません。音楽鑑賞そのものが持つ楽しさだけでなく、全校児童・生徒の皆さんとオーケストラが共演することにより、「他者と力を合わせ、共にひとつのものを創り上げ共有する喜びや楽しさ」を体感してもらい、協調性や共感性を育む機会にもしたいと考えています。</p> <p>まず、ワークショップでは、物理的や心理的にも子供たちと近い距離で実施することにより、“演奏家”や“楽器”を身近に感じ、より興味を持てるよう工夫しています。本公演では、耳馴染みのある曲を多く取り入れることで、音楽芸術への興味を深める機会に繋がりたいと考えています。また、歌と司会担当としてプロのオペラ歌手をゲストに迎え、歌声の魅力を十分に引き出すオペラアリア等をプログラムに取り入れます。オーケストラの生演奏だけではなく、普段聴くことのできないオペラの歌声を聴いていただくことも、重要なポイントとしてプログラムを構成しています。</p> <p>これまでの公演で、楽団の持つアットホームで親しみのある雰囲気や子ども達への接し方について学校の先生方からも大変好評をいただいております、これはこの事業を通して公演を行う上で大切な要素であると考えています。子どもたちからは「オーケストラと一緒に校歌が歌えて嬉しかった」「もっと沢山の曲を聴いてみたいと思った」などの感想や、学校の先生方からは「楽器への関心が高まり、休み時間に音楽室で楽器を演奏している児童がいた」「公演を機に、学校の音楽会に向けてより意欲的に取り組む姿が見られた」「五感で感じる体験は、子どもたちに多くの刺激を与えてくれた」など嬉しい声が届き、この事業がもたらす大きな意義を感じています。</p> <p>小編成のオーケストラであっても演奏の質を保つ工夫を凝らすことで、大編成に劣らないオーケストラのサウンドを提供でき、文化的な地域格差の解消を促進できるよう努めて参ります。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b>  <b>【効果的に実施するための工夫】</b>          ・本公演の前半は鑑賞を中心としたプログラム、後半は共演を中心としたプログラムで構成することで、低学年でも飽きずに最後まで楽しむことができるよう工夫しています。</p> <p>・音楽教材として教科書に掲載されている曲目を取り入れることで、クラシック音楽がより身近に感じられるよう工夫しています。</p> <p><b>【円滑に実施するための工夫】</b>          初めて本事業を実施される学校の先生方にも、より具体的に公演をイメージしていただけるよう以下の点に注意して取り組んでいます。</p> <p>・ワークショップ実施にむけての準備として、確認事項をまとめた資料を事前にお送りして頂きます。簡易的なプログラムを作成し、ワークショップの具体的な内容をお伝えする等、安心して当日を迎えて頂けるように工夫をしております。また、メールの文章だけではなく、後日かならず電話で連絡することで、より綿密なコミュニケーションが取れ、質問や要望が言いやすい環境づくりにも繋がっています。</p> <p>・本公演に向けての打合せにおいては、楽団独自のチェックシートを作成し事前にお送りすることで、当日の打ち合わせもスムーズに進められています。言葉や文字だけでなく、記録写真や簡単な舞台図などをお見せすることで、公演を視覚的に分かりやすく伝えられるよう、工夫しています。</p> <p>また学校によって実施環境や要望が異なる為、丁寧な説明やヒアリングを行うことで、各学校に合わせた柔軟且つ臨機応変な対応が、事業を円滑に実施できることに繋がっています。</p>
--	--

別添	なし
----	----

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団】

C区分で事業を実施するに当たっての工夫	<p><b>①離島・へき地等における公演実績</b>  2010年 四万十市立蔵岡中学校[高知県]  2011年 北広島町立新庄小学校[広島県]  2012年 天草市立牛深中学校[熊本県]  2015年 志布志市立潤ヶ野小学校[鹿児島県]、和泊町立内城小学校[鹿児島県]  2017年 宮古島市立平良第一小学校[沖縄県]</p> <p>2021年  十津川村立十津川第二小学校[奈良県]、青梅市立第六中学校[東京都]、  下妻市立総上小学校[茨城県]、甲府市立大藤小学校[山梨県] 他</p> <p>2022年  潟上市立東湖小学校[秋田県]、加美町立賀美石小学校[宮城県]  八代市立泉小・中学校[熊本県] 他</p> <p>2023年  雲南市立海潮中学校[島根県]、北広島町立大朝中学校[広島県]、  野迫川村立野迫川小中学校[奈良県]、宇陀市立室生小学校[奈良県] 他</p> <p>2024年  いの町立長沢小学校[高知県]、吉野川市立山瀬小学校[徳島県]、  洲本市立安乎小学校[兵庫県]、淡路市立北淡小学校[兵庫県]など</p> <p><b>②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出演者数を小規模にし、楽器以外の備品の物量を削減することにより、移動や運搬に制限がある地域においても、スムーズな移動・運搬が可能となっています。</li> </ul> <p>&lt;小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リダクションを施しても遜色のない曲で構成することにより、演奏の質を保ち、大編成に劣らないオーケストラのサウンドを体感いただけるよう工夫をしています。</li> </ul> <p>また、ソリストと司会としてオペラ歌手が出演することにより、A区分と同等にオペラの魅力も届けることが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップについては、A区分と同等の実施が可能。</li> </ul> <p>小規模学校の場合は、より演奏者に近い位置から各楽器の演奏を聴いていただけるよう配置を工夫しています。様々な角度から見聞きすることで「楽器について新たな発見や、子どもたちが自発的に興味を持つ機会に繋がっている」と学校の先生から嬉しい声も届いています。</p> <p>また、物理的にも心理的にも距離感が近くなることにより、子ども達と積極的なコミュニケーションを取ることができ、更に一体感を感じる共演が実現しています。</p> <p><b>③C区分応募における、費用面の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器や備品の物量を削減することにより、舞台スタッフ人件費・楽器運搬費が大幅に削減できます。</li> <li>・出演者を小規模編成とすることで、出演料や旅費を抑えられます。</li> <li>・ライブラリアンが舞台スタッフを兼任することで、人件費・派遣費が削減できます。</li> </ul>
---------------------	--

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 <b>ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団</b> 】
曲目概要	<p>◆<u>ロッシーニ／歌劇「ウィリアムテル」より 序曲“スイス軍の行進”</u> イタリアの作曲家ロッシーニの生涯最後の歌劇「ウィリアム・テル」より“スイス軍の行進”華々しいファンファーレで演奏会のオープニングを飾ります。</p> <p>◆<u>楽器紹介</u> オーケストラを構成する楽器たちを、弦・木管・金管・打楽器の順にお話と演奏を交えながら紹介。</p> <p>◆<u>ビゼー／「アルルの女 第2組曲」より “メヌエット”</u> 「アルルの女」は、歌劇「カルメン」と並んで有名なビゼーの作品で、オーケストラの演奏会でも、よく取り上げられます。 ハープとフルートの美しい旋律は、誰もがどこかで耳にしたことがある一曲。</p> <p>◆<u>オペラ・アリア</u> オーケストラの楽器とは異なり、身体が楽器となるオペラ歌手。 会場いっばいに響き渡る美しい歌声が体感できるのも、聴きどころのひとつです！</p> <p>▷<u>開催校校歌</u> 普段はピアノ伴奏で歌っている校歌をオーケストラの特別ヴァージョン版へアレンジ♪ オーケストラと一緒に音楽を奏でる素晴らしさを、子供たちに体感して頂きます。</p> <p>▷<u>指揮者体験コーナー</u> 全員で指揮の練習をした後、代表3名の方にオーケストラの指揮に挑戦していただきます。 指揮者によって変わるオーケストラの音色を、鑑賞している皆さんにも感じていただきます。</p> <p>▷<u>共演コーナー</u> 「合唱」「手拍子リズム」のいずれかから1曲を選択し、オーケストラと一緒に共演していただきます。 オーケストラと児童・生徒、会場の皆さんで一体となり演奏することで、“共に音楽を奏でる喜び”を体験していただきます。</p> <p>◆<u>ビゼー／「アルルの女 第1、第2組曲」より “カリヨン” “ファランドール”</u> カリヨンというのは「鐘」のことで、その音を真似た力強い響きで始まります。戯曲では祭りの場面で演奏される音楽。 ファランドールでは、物語の舞台となるプロヴァンス地方の民謡のメロディーが2つ引用されています。 力強く華やかな一曲で、演奏会のフィナーレを盛り上げます。</p> <p>【アンコール】<u>オッフェンバック／喜歌劇「天国と地獄」より 序曲</u> 運動会のBGMでも良く使われるテンポの良い「天国と地獄」序曲で、演奏会を締めくくります。</p>	